



近年、夏鳥の減少が叫ばれています。などと、思っていたのですが、『夏鳥たちの歌は、今』が出版されたのは1993年。夏鳥の減少は、もう20年以上も叫ばれているようです。その後どうなっているのでしょうか？そこで、今回は夏鳥に注目してみます。夏鳥といってもさまざまなので、ここでは山の林で繁殖するスズメ目に限ります。テーマは減った夏鳥は減ったままなのか？です。

●1990年代の夏鳥の状況

森下ほか(1997)は、1996年に実施したアンケートの調査から、1990年代に入って、サンショウクイやサンコウチョウなどが、全国的に減少しているという結果を示しています。

1970年代から1990年代半ばまでの定期的な探鳥会の記録などをまとめた結果からも、サンショウクイなどの全国的な減少が示されています(樋口1998)。面白いことにサンコウチョウは東日本で減少している地点が多い一方で、西日本ではむしろ増加傾向を示す地点が多かったそうです。また、オオルリやヤブサメは、地点によって増加傾向と減少傾向が混在していました。減少した年代をみると、多くの種が1980年代に出現確率が半分になっていました。

どうやら1980年代に何かあって、夏鳥は日本全国規模で急速に減少したようなのですが、その減り具合は種によってさまざまです。また、場所による違いも大きいようです。その違いの理由はよく判っていません。

●夏鳥たち、今は？

それでは2000年以降、夏鳥に大きな変化はないのでしょうか？

植田睦之ほか(2014)は、2009年から2013年のモニタリングサイト1000の森林調査の結果に基づいて、全国的な鳥類の増減を検討しています。それによると、夏鳥ではコルリが減少しているだけで、サンショウクイ、センダイムシクイ、オオルリに有意な増減はなく、キビタキはむしろ増加しているという結果でした。ただし、ここで注意しないといけないのは、サンショウクイなどは、もっと以前にすでに減少してしまっていて、その後は大きな変化をしていないだけだろう、ということです。そもそもサンコウチョウやクロツグミは、記録された地点



図1：キビタキ(撮影：納家 仁 2011.4大阪市内)

が少ないのか、解析対象にもなっていません。

片山涼子ほか(2012)は、1995年から2010年の奈良市矢田丘陵での鳥類センサス調査の結果をまとめています。夏鳥の目立った傾向としては、ここでも2006年以降のキビタキの増加があげられます。そして、サンコウチョウやサンショウクイはわずかにしか記録されていません。どうやら減少した夏鳥の多くは、減ったままのようですが、なぜかキビタキだけが増加しています。



図2：サンコウチョウ(撮影：納家 仁 2010.5大阪市内)

●野外で実際に観察してみよう

大阪府でもキビタキの増加は明らかです。かつては金剛山山頂部にしかいなかったのが、いまや丘陵地の林に広く分布し、万博公園などの公園でも繁殖するようになりました。なぜキビタキが増えたのかは、よく判っていません。ということは、他の夏鳥も増加に転じる可能性があるということではないでしょうか？

個人的には、サンショウクイやサンコウチョウ、クロツグミは、一時期よりは増えたんじゃないかと思っています。というのも、渡りの時に見かけることが多くなったと思うのです。夏鳥の増減は、繁殖地での調査だけでなく、渡りの時の個体数からも評価できるはずですが、以前と比べて、公園を通過する夏鳥は増えていませんか？

春や秋に、公園に鳥を見に行ったら、夏鳥の増減について考えながら観察してみてもはどうでしょう？

●引用文献

- 植田睦之ほか(2014) 全国規模の森林モニタリングが示す5年間の鳥類の変化. Bird Research, 10 : F3-F11.
- 遠藤公男(編)(1993) 夏鳥たちの歌は、今. 三省堂, 東京.
- 樋口広芳(1998) 長距離移動性渡り鳥の減少機構解明に関する研究. 研究成果報告書「F-2 アジア・太平洋地域における湿地等生態系の動態評価に関する研究」. 環境庁自然保護局野生生物課, 東京.
- 片山涼子ほか(2012) 近畿大学奈良キャンパスにおける野鳥群集の季節的・年次的変動(2)1995年?2010年の調査結果. 近畿大学農学部紀要, 45 : 17-46.
- 森下英美子・宮崎久恵・樋口広芳(1997) 夏鳥は減っている? 野鳥, 62(3) : 38-41.

和田 岳(わだ たけし)：本会幹事、大阪市立自然史博物館学芸員。HP「和田の鳥小屋」
<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/wada/wada-index.html>